

木と木を組む伝統的な木造の家。竹を組んで土を塗る、伝統的な土壁の家。日本の昔ながらの工法です。古いけれど、新しい環境の世紀、二十一世紀にふさわしい住まいが完成しました。一尺(30cm)の大黒柱、六寸、七寸の通し柱を使用した丈夫な骨組みは、見る人を圧巻します。土壁の調湿作用で、夏はひんやりと涼しく、蓄熱作用で、冬はじんわりとあたたかい。本物の自然素材で仕上げた家に、薪ストーブは絵になります。この空気感、自ら五感を使い確かめてみませんか。

おかげさまで

「サガ電子工業 新工場」

「第17回 佐賀市景観賞」

「長崎街道八戸の家」

「第15回 佐賀市景観賞」

「第3回 佐賀の家賞知事賞」をいただくことができました。



サガ電子工業 新工場



長崎街道八戸の家

人が住まいをつくり 住まいが人の心をつくる (沖縄の古民家 中村家住宅)

古民家に学ぶこと

夢木香の住まいづくり

夢木香は自然素材にこだわり施工します。素材は身近にありますが、施工するためには職人の技術が必要です。木や竹や土や紙や藁を、大工、左官、瓦、建具、畳職人たちが力を合わせ仕上げてゆきます。古民家の再生を手がけることにより、昔の職人たちと会話ができます。力強さと優美さを兼ねそなえた丸太の木組み、落ちついた風合いのいぶし瓦、漆塗の美しさと、そり壁の優美な曲線、繊細な、透かし彫りの欄間や組子など、いたるところに昔の職人の心意気が感じられます。その技術を伝承し、次世代に伝えてゆくことが大切だと感じます。古民家の再生に学び、その技術と思想を、新築やリフォームにいかにしてゆくことが、私たちのつとめだと考えます。

本当のエコ住宅とは

近年、エコ住宅をうたいもんに、高気密高断熱がさかんにとなえられています。通気を遮断し、吸湿性のないビニールクロスの家が多く見受けられます。結露が発生しやすく、カビの原因をつくり、カビがダニを呼び、ダニの死骸がアレルギーを誘発します。それを避けるためには、エアコンや換気扇あるいは除湿機や加湿器や空気清浄機が必要です。つまり、設備機器を効率よく使うための工法です。設備機器がなかった時代に造られた古民家には、機械をつかわない工夫があります。呼吸する自然素材がふんだんにつかわれ、梅雨や夏の暑さをしのぐ知恵があります。寒さに対して、適度な気密と断熱をとれば、暮らしやすい住まいになります。本当のエコとは設備機器をできるだけつかわない住まいだと考えます。

200年住宅

ようやく住宅の耐久性が見直されてきました。日本の住宅の寿命は30年です。30年では木が循環していきません。木材の80%を輸入し、30年の住宅寿命しかない住宅しか造られていないのが現状です。技術がないわけではありません。日本には100年~200年の住宅、200年~500年の寺社仏閣は数多く存在します。自然の実物大実験を経た伝統的構法には学ぶべきものが多くあります。台風が襲来し、地震が多く、梅雨がある過酷な建築条件の中で耐えてきた古民家に学び、新築やリフォームも、家づくりは子や孫たちのためにとの思想を取り戻したいと考えます。

五感で感じる住まい

今、この季節、さわやかさを感じてほしい。木と土壁がもつ調湿作用で。本物の自然素材のにおいを、木の香りと漆喰や畳のにおいで。肌ふれるこちよさを、無垢の床板をはだして歩いてください。キッチンも洗面も浴室も無垢材の手造りです。見て楽しんでください。伝統的な木組みと、骨太の木組みが持つ安心感を。耳を澄ましてください。響かない音を、木や土は音を吸収します。適度な反響、なぜなら多くの楽器は木製です。今、まわりの環境は、無機質な物、人工的な物に変わりつつあります。せめて家の中だけでも、こちよ空間がほしいものです。子どもたちに自然のハーモニーを聴かせてあげたいものです。

人間が家をつくるが 家は人間をつくる (イギリス元首相 チャーチル)

再生古民家・井手邸に住んでみて 井手様

私の実家、古い土蔵造りの家を約1年半かけて改築し平成21(2009)年10月に完成。この家は基本的には「木」と「土」と「紙」でできていて自然の素材がほとんどです。

「古民家の生活は自然の中の生活です」

木と土と紙は自然の空気に対応して自動的に調節してくれます。木は温度の調節だけではなく湿度の調節もしてくれます。風呂場や縁のガラスに結露はつきません。土壁の家は夏はひんやりと涼しく冬はほんわりと温かく感じます。これも木と同じく調湿性や調温性を持っているからです。障子(紙)は開閉により温度調節や光の調節が出来、障子を通して入ってくる光はとても柔らかく穏やかな雰囲気を出してくれます。まさに森の中に身を置いているのと同じではないでしょうか。

(木)

・吹き抜け

従来蔵の部分吹き抜けに改造しギャラリ風に戻廊を作り小道具などの置き場になっています。吹き抜けのよさは、まずは空間が大きく広がり開放感が味わえます。

・床の温もり

厚さ4cmの杉材で床を張ってあります。真冬に裸足で歩いても冷たさを感じません。逆に温もりさえ感じます。夏はひんやり感が心地よいです。

・木の持ち味・個性

使われている柱・床板・壁板の木々は各々個性があり色・つや・模様など一つとして同じものはありません。それらがうまく調和しあひま合っており見ていて楽しくなります。

(土)

・漆喰壁

竹を格子状に組んだ竹小舞と呼ばれる芯の部分に壁土を塗りつけ乾燥させて漆喰を塗って仕上げます。その厚さは20cmにもなります。まず感じるのは色の白さです。外壁は朝日、夕日、満月、新月にも映えてとても美しく、外から家を見るのが楽しみの一つです。

・土間(タタキ)

赤土・砂・小砂利に消石灰と「にがり」を混ぜて固め徹底して敷いて造られた土間(タタキ)はコンクリートには無い柔らかい味を帯びた硬さがあり大地の温もりが伝わってきます。

・瓦

屋根は淡路産のいぶし瓦4,500枚で葺かれています。銀ねず色の瓦で白壁に柔らかく調和しています。

(紙)

・戸・障子

戸と障子は和紙とガラス張りです。和紙は光を和らげて室内に明るさを届けてくれ部屋中をやわらかく包んでくれます。佐賀の特産品に「名尾和紙」があります。名尾までみんなで見学に行き2・3種類選んで購入し家内たちのアイデアで小窓の障子を作りました。

【住み心地は】

家が完成し転居して以来、私の家には2,000人以上の方々がお見えになっています。古民家のよさや伝統的な木造建築の素晴らしさを求めてお見えになる方が多いようです。「よくぞこのような家を残してくれましたね!」と仰ってくださいの方も少なくありません。古民家は、「私個人のものではなく、皆さんのものもあるのだな」と思えてきました。とくに我が家が長崎街道のそばに建っていることもあって、この家が歴史的意義も出ていることを改めて感じています。今回、古民家の改装をせず別の選択肢を選んでいたら大きな悔が残ったのではないかと考えています。思い切ったよかつたと思っています。

佐賀の木を使うことが佐賀の自然を守る!

佐賀の森林は、約7割に杉や松が植林されています。人の手で下刈りや間伐を行ないながら、木を伐って使い、また植えるという繰り返しを続けていかないと森林がもっている機能が低下し、山の表土が流出したり環境破壊を招くこととなります。県産木材を利用することは、私たちの環境を守ることになるのです。

木造の家は第二の森林です!

「木材」は、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を大気から吸収して、自身に炭素を貯蔵します。このため、伐採後も炭素を貯蔵し続ける木材を使った木造住宅は森林を増やしたのと同じ効果があるため「第二の森林」とも言われ、地球温暖化防止に役立っているのです。

地産地消は地域の活性化につながります!

「木材」は、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を大気から吸収して地域の人々の手で森林の維持・育成、木材生産、木材加工、さらに木造住宅の建築を行い、県産木材を地元で消費することにより、木材を中心とした産業活動が活発となり、地域の活性化につながります。



最後までお読みいただきありがとうございますございました。是非会場にお越しいただき、記事の内容をご自身で体感ください。